

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年7月1日（木）午後7時00分～8時32分
場 所 下庄小学校 体育館
出席者 下庄小学校区住民 13名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 小中学校再編計画の元の案では、中学校は1校、小学校は2校で、前の市長、教育長が積極的に計画を進めていた。その時の説明では、一つの学校は600人ぐらいの生徒がいないと理想的な教育ができないと説明していたことを記憶している。しかし、今回の再編計画の案は、その時の意向からは大きく変わったように思う。学校教育のあり方を改められたのか、方針転換があったのか。前の考え方が駄目だったのでこのように改めたのか教えてほしい。

市教委 基本的には、人数はなるべく多い方がいいという考え方は変わっていない。ただ、それぞれの地区によって、適正な大きさについては考え方は一律ではないと思っている。

市街地のように児童生徒の数が多しは、なるべく多い方が良いと思っているが、周辺地区では600人が本当に必要かということ、その地域ごとの規模があつて良いと思っている。

参加者 現在のこの案で、学校の規模的にはさまざまな諸事情を勘案してこの規模で収めるには良いと私なりに思っている。この意見を元の再編案の時に提案しているが、かたくなに600人いないと駄目だと言われた。やはり、教育委員会として方針転換したのか。考え方を改めたと思うが、その辺はどうか。

市教委 教育委員会としては、子どもたちのことを考えて、集団の規模を確保するために学校再編は必要であるという考え方は変わっていない。そして、前回の説明が間違いか正しいかは何とも言えない。この大野市において、何らかの形で再編は必要であり、それを進めようと思うと市民の皆さんに納得していただける計画にすべきであると思っている。それを加味すると、このような形で段階的な再編が必要ではないかと考えている。

参加者 資料8ページの公民館機能の活動と地域の連帯で、今、大野市も第六次

総合計画の中で、地域のあり方、公民館のあり方などで問い掛けられている。直接、地域の人の取り組みは、まだそこまではっていない。ここに書いてあることは非常に理想である。公民館をコミュニティの中心とする、子どもたちの交流の場は非常に大切である。

例えば、中学校が2校になる、小学校が7校になる。そうした時に各地区の公民館のあり方はどのように変わるのか。下庄小学校の場合は、近くに下庄公民館があるので、その活用は非常によくできるのですが、例えば乾側公民館や他の地区の公民館のあり方はどのように変化していくのか。今までどおりの公民館機能か、公民館活動は行っていくのか。

市教委

今年、地域づくり部を設置した。教育長のあいさつの中で、大きい改革として教育委員会が未就学の子どもたちも取り扱うと言ったが、もう一つの大きい改革は、まさに地域づくり部と看板を掲げて、新しい組織を作った。これまで公民館は教育委員会の管轄であった。もちろん生涯教育の部分は残してあるが、公民館の管轄を地域づくり部に移管している。市長も非常に力を入れていて、市長が自ら下庄地区区長会に出向いている。これは下庄地区だけではなく、さまざまな地区に出向いている。

今、学校再編、人口減少が続く中、また高齢化も進む中で、やはり公民館が地域の核になっていくべきである。その考えの下で今年から本格的にスタートしている。しかし、これも大きい課題であると思っている。「地域で頑張ってください」と言っても、「もうこれ以上地域住民に何を頑張れというのか」と言っている人もいるし、人もいない所も実際にあると思っている。特に村部に行けば行くほどそういう形になる。ただ、市役所に言われたことだけをやる、それではもう立ち行かない世の中になっていると思っている。そのような考えの下で総合計画も作っている。

ご質問の公民館がどう変わるのか、これは長い大野の歴史の中で、昭和の合併の時に、今まであった大野町、下庄町、それから上庄、乾側村それぞれ合併したベースがあるので、それはそのまま引き継ぎたい。ただ、その内容は、今までのように社会教育ばかりじゃなく地域づくり、さらに地域福祉という課題などを扱うような内容に変わってきたし、変えていかなければならないと思っている。ただ、それは、本当に大きい課題になる。上手くいくか分からないが、それに向かって、地域づくり部が一生懸命に頑張っている。ご協力をお願いしたい。

参加者

公民館を中心としてやっていくとなると、7、8年前に放課後子ども教室で、小山は受け入れて教室をやっているが、下庄地区ではたまたまできなかった。やはり地域の力というか、地域の子どもの地域で見守って、地域の力で育てていかなければならない。サポートで本来の学校教育ではな

いが、人口も減ってきており核家族化が進むなどさまざまな状況の中で、これは学校の分野だ、公民館の分野だとやりだすと本当に難しい問題が出てくるので、やはりこの辺をもう少し検討してほしい。

学校が無くなると心配だと言うが、今までもそれは当然に議論されてきたことで、それにとやかく言うことはない。ただ、公民館を中心として子どもの教育や子どもを見ることなど、公民館に小学校の子どもから中学校の子どもが寄ってきたときの対応や、今も下庄公民館に子どもたちが来て、保護者が迎えに来るまで少し居ることも、勉強していることも、本当に微笑ましいと思う。けれども学校が無くなったときに、では上庄小学校で子どもたちはどうなるのか。まだ、上庄小学校は統合までっていないが、そうなった時の公民館のあり方を、区長会などからのさまざまな協力が無いとできないが、考えてほしい。将来の展開はまだ先が見えないが、今から議論しないと地域づくりはできないと思う。この学校再編に伴って、これが出てくる。やはりもう少し検討して、子どもたちの見守りをどうするのか考えてほしい。

市教委

本当に大事な課題と捉えている。今、言ったことを2年後の話で申し上げると、まず中学校の再編では、子どもの居場所作りはあまり心配していない。小学校の再編では阪谷小学校や小山小学校の子どもはしっかりと送り迎えをして、小山地区の子どもは小山公民館で、阪谷地区なら阪谷公民館で、子どもの放課後の居場所を確保することで変わりはない。もっと先、小学校再編の8年が終わって5年ぐらい経ったら、もう1回状況を見ながら、次の再編を考えていこうと思っている。実際まだ、その先のことは分からない。まさしく児童館のことも、それから放課後子ども教室のことも全部、教育委員会の所管になったので、これは柔軟に考えたい。また、今一番、期待していることは国が進めている「こども庁」のことで、そこで垣根がどのくらい取れるのか注視していきたい。

参加者

私は15年前まで教員をしていた。平成16年に再編が始まった時に小山小学校にいたが、最初に新聞に出たのが、小山小学校は南小の分校に、乾側小学校は西小の分校にと、そこから始まって自分の頭の中ではそうなっている。それから、さまざまに学校の再編が絡んで、17、18年前からやっところまでの再編に、何とかみんなが加わってやってきたと思っている。いきなり1校、2校と言う話が出てくるなど、どういうことなのかという感じである。自分なりに考えると、先ほどの再編計画の説明で、大野らしさが生きる教育を実現し、未来を生き抜く力を育むためとあったが、前の教育長と市長は、未来を生き抜く力を育むためということにきっと重点があったと。だから50年後の職業は全然違うと、教育長も話して

いた。絶対に1校、2校でいかないと駄目なのだと saying いた。

私は、今日この5ページの説明を聞いてとても心配になる。事務局長もいずれ5年後、或いは何年後には次の再編を考えると、今の再編は、今の時代に適切、妥当と言えるかどうか思っていない。その当時当時に、人間や子どもがらいるので、その当時当時にできる限り良い方にと私は思っている。「5年後、6年後の次は1校、2校になるかもしれないね」というような感じだと、目標があるとついつい目標を達成するための理由を探したくなってしまふ。自分も一緒である。とにかく自分の思いを果たそうと思うと何か説得する理由が見つからないかなと考えてしまふ。今まで皆さん苦勞してきて、今日もこんな少ない参加数は本当に寂しいと思っている。来られた方に言っても仕方がないので、この5ページのところをあまり強調しないでほしい。その時々に応じて最善を尽くしていこうなど、あまり目標に向かっていくと、いずれは最初に戻るのではないかと思っている。「だからそうなったじゃないか」となるのが心配である。

大野らしさ、大野が生きる教育環境を、そういう子どもの教育があってほしいと私は個人的に思っている。あと5年経つと80過ぎでとても意見を言う年齢でなくなるが、学校では教員をやっていたから、道徳的に言ったら何で人を殺してはいけないとか、何で学校へ来るのかとか、何のために勉強をしないといけないとか、完璧でなくても子どもは、自分に対する疑問が出てくるので、大野らしい教育環境が学校にあったらいいなと私は夢を見ている。この次に再編という前に、例え人口減少があっても、これが善かれと思ったら、わざわざ子どもを集めなくてもいいかなとそう思っている。

若い人達には、そういうことも踏まえて新しい道が開ける場所も残してほしいなと、初めから目標が見えない方が良く自分では思っている。子どもが追い詰められたら逃げ道を一方だけ作っておく、そういう場所があると良いと思っている。

市教委

5ページの将来の再編に向けて、今言われた気持ちと同じである。ここに向かっていくという意味では。今は前を見通すことができにくい時代である。このため「このような可能性もあります」と提案している。というのは、今1年生の子どもからタブレットを一つ持って授業をする。これが1年で完成した。10年後に学校の中で、どういう授業がされているのか、学校を取り巻く社会がどういう社会になっているのかは、全く見通せない時代になっている。今言われるように、今の大野に一番良い再編の形はこれだと。まずはこれを1回収めて、そして、何年かしっかりと見る。上手くいっているかどうかしっかりと見て、大野市の皆さんも1回しっかりと

と見ていただいて、そして、次のことを考える必要があれば、考えていく。
1回収めたうえで、それから5年後くらいからは本当に児童生徒数がどう
だろうかやICT関係のことなども、全部考えて、次の再編の検討が必要
であれば検討してみようと、そのような提案である。決して、そこを目標
にやっているわけではない。まず、今が大切だと思っている。

参加者 先ほど話された公民館の関わりについて、今回の計画で出ている地域の
公民館の関わりを、子どもたちとその連携を深めていこうと、これは非常
に良いことだと思っている。大野らしいことで推奨されることだと思っ
ている。その考え方の中で教育について学校の先生だけではなく、社会の大
人も教育に関わっていくことを言っているかと思うが、それでよろしいか。

市教委 その通りである。下庄小学校と乾側小学校がこの4月に統合になった。
乾側小学校は、これまで醍醐寺と交流を行っていた。昔、乾側が醍醐寺の
荘園だった縁で、お米を奉納している。その活動を小学校で行っていたが、
今度から乾側公民館で実施している。田植えなどで公民館に子どもたちが
集まってくる。今までは乾側小学校と乾側地区の人が集まっていたが、今
度からはそこに中学生も来る。高校生になった子どもも来る。そして一緒
になったから下庄地区の子どもも一緒に参加することがあっても良いと思
っている。これこそ、今話があった大人が子どもを育てていくという部分
になると思っている。

参加者 その話を聞いて良いことだと思っている。まだ、具体的に誰に教えても
らうか、学校としてどう臨んでいくのか具体的なことは決まっていな
いと思うが、これを詰めていくに当たっては、学校当事者と地域の人達と一緒
にカリキュラムを考えるくらいに進んで欲しい。

それからさらに進んで、大人がどういう生き方をしてきたのかという一
つの授業を持って、そういう取り組みがあっても良いと思っている。外部
講師などで、小学校、中学校、高校までも垣根を越えて、地域の大人と一
緒にその子どもたちを育てていく、その取り組みの一つとしてあって良い
と思っている。検討するに当たっては、地域の人、公民館のそれなりの立
場の人と一緒に計画して欲しいと思っている。

市教委 学校にはコミュニティスクールと言って、学校にいろいろ意見をいただ
く地域の方がいる。そこに公民館の方が入って、一緒に学校を支えてい
こうとそういった話をしている。公民館機能をもっと強化して、学校のすべ
きこと、そして公民館のすべきこと、そして連携することなど、これらを
次年度から強化しようと考えている。

参加者 一方で、大きい責任を公民館に課せられても、大きな組織の学校と同じ
ように、並列的に対応していけるかということそれは無理だと思う。期待さ

れても対応できない。だから、その辺りは緩い関係であってほしいと思っている。ただ、個人個人を見れば講師として迎えられる方や団体は、そこかしこにあると思う。そういった個々を学校教育の中に吸い上げていく方法で取り組んでほしい。

市教委 コミュニティスクールの強化の中で、今言った意見を十分に取り入れながらやっていきたい。

また、今年度から始まったアートドリーム事業がある。この間も新聞に載っていたと思うが、これは大野市ゆかりのアーティストに小学校に来てもらって、今年はファゴットという楽器を演奏してもらった。1学級で演奏を非常に身近で聞いてもらう。それがまさしく地域と学校との連携になる。それを聞いて子どもたちがふるさとに対して誇りや愛着を持つということで、緩やかになるが、そのようなことを行いながら学校と地域、公民館との連携を進めていきたいと思っている。

参加者 資料の9ページのスクールバスの運行で、通学距離が概ね片道4キロ、中学校は6キロ以上の区にスクールバスを運行するとある。例えば、児童生徒が通う学校から自宅の距離が4キロ以上の所に住んでいる地区があって子どもたちがいて、その子たちはこのスクールバスに乗れると思うが、そのスクールバスが学校まで通う道で、その近辺に住んでいる子どもたちは、スクールバスにはやっぱり乗れないのか。

市教委 途中で乗られる方は、距離的なものがあると思うが、例えば学校から近い所にいて途中から乗ってくることは難しい。ただ、きちんと4キロないと乗れない、6キロないと乗れないということではない。そこは学校のそれぞれの地区の事情があるので、スクールバスのルートなどは学校と保護者、或いはPTAなどと協議をして、実際に乗る児童生徒、ルートなども毎年協議をして、変更したりしている。

参加者 それを踏まえて提案を一つしたい。最近の千葉県の集団登校中の事故もあり、できる限り子どもたちを車やバスに乗せてあげたいと思っている。私も小学校1年生になる娘が1人いる。自宅はここから歩いて5分ぐらいの所に住んでいるが、集団登校で毎朝その娘と一緒に学校まで付いて行って、すぐそばの横断歩道の交差点で、その班を見送っている。そこに立っていると、朝は10班ぐらいがさまざまな地域からこの横断歩道を目掛けて登校してくる。その中に乾側地区から来るバスがあるが、バスには10人から20人以内ぐらいの子どもたちが乗っていると思うが、そのバスの子どもたちが去った後に、矢区の方から女の子6人だけの集団登校が、毎朝乾側バスよりも遅れて歩いてくる。矢区に住んでいる子どもたちは、ここまで30分以上かけて、毎朝歩いて来ていると思うが、片や乾側はここ

から遠いのでバスで来るのは仕方がないと思うが、多分バスで乾側公民館から5分ぐらいでここまで来ていると思う。片や乾側に比べてここからは近い所に住んでいる矢区の女の子6人の集団登校の子どもたちは30分以上かけて歩いてきている。いつもその乾側のバスよりも後に来ている。その乾側のバスが、例えば西市を經由すれば、その矢村の6人の女の子をバスに乗せて、一緒に来ることができると思う。この9ページに書いてある片道4キロ以上というルールも必要だと思うが、そのバスの経路に近い地区は、片道4キロ以上でなくても乗せてあげられるような、そういう柔軟なことも考えていただきたい。

市教委 その気持ちはよく分かる。乾側地区のスクールバスだが1カ月に1回乗っている。一昨日乗ってきた。4月1日から下庄に統合したけれど、それで終わりではない。それがスタートだと言っている。乾側地区の子どもが大丈夫かな、子どもたちが車の中で大丈夫か、学校に来て元気かなど考えている。バスに乗るときには保護者の人や祖父母が見送りに来ている。教育委員会もしっかり見ているというつもりで、私はバスに乗っている。

乾側のスクールバスは7時20分に中丁を出る。地区を回って、下庄小学校に7時45分に着く。25分かかる。乾側の登録は16人で、大体乗るのが12、13人だが、その子どもたちがあまり乗っている時間が長くないようにと考えている。冬になるともっと時間がかかる。だから、今のところはなるべく早く着くように、30分を超えないようにと思って運行している。大門からこちらへ真っ直ぐに来るのではなく、西市を回って乗せてくる。そういうことも考えられる。その辺は柔軟な考え方をしないといけないと思っている。ただ、今はなるべく乾側の子どもたちが乗っている時間が長くなり過ぎないように配慮をしている。

参加者 私も勘違いをしていた。バスがそれだけ長い時間をかけて来ていることを知らなかった。乾側公民館に皆が集まって、そこからバスが来ているのかなと思っていた。いろいろな家の近くを回って走っているのか。

市教委 5カ所ぐらい止まる所があって、そこを經由して来ている。

参加者 私は、今小学校1年生の娘が下庄にいて、その下の女の子があかね保育園の年中にいますが、この学校再編の案には全面的に賛成をしている。というか何も言うことがない。我々のその親、私や私より上の皆さんたちが、これまで経験したことがない環境や時代に、今から子どもたちを送り出すとしている中で、学校再編の話は親として、もう変えられないと思っている。児童減少の流れはもう誰にも止められない。そういうことにあらがうのではなく、私は自分の子どもを、今から凄く変化していく時代の環境の中に送り出すことについて、変化に強い子どもに、何とか強い大人に育

てようと思っている。そちらの方に私は関心がある。どのような学校になろうと、どのような環境になろうと、どこでも生きていける子どもをこれから育てていきたいと、今日また改めて思った。

市教委

この下庄小学校は、かなり斬新な指導を取り入れている。今1年生だということだが、2年生、3年生となっていくときに、また学校に来てもらって見ていただければと思っている。

この再編計画案は、まずは大野の教育はどこを目指そうか考えるところから入っている。学校の数とか、時期のことにいきなり入っていない。だから、これは再編の案だが、学校を取り巻く教育環境をどう整備しようかと、何を狙っていかうかと、まさに言われるように、社会の中で生きていける子どもを育てるにはどうしたら良いかと、そこから入っているので、支持していただきありがたい。

それともう一つは、私は動かなければならない学校の子どもたち、保護者の方々、すなわち小さい学校の地区の方々、そういう方々に、ちゃんと心を寄せて、そしてこの案を進めさせていただければと思っている。その考えはしっかり持っていたいと思っている。

参加者

スクールバスのことで、元の計画案の時にも提言したが、市側の回答は、朝夕、1便を出すという印象であった。それでは不十分だと思う。朝はずっと各地区を巡って、子どもたちを乗せて学校へ届けるという、朝の時間帯を見る限りは1便で仕方がないと思っている。それに当たって先ほどの発言があったように臨機応変な対応で不公平にならない程度に、子どもたちの安全を優先してスクールバスの運営を考えてもらいたい。

問題は下校である。小学校で言えば1年生と6年生は、スケジュールが全然違う。そこに下校時刻に合わせて1便だけという構想では、これは、子どもにとってもものすごくしわ寄せになると思う。少なくとも2便、場合によっては3便に分けてほしい。乗る生徒が少ない、いないかもしれないが、学校を建てるよりは安くなるはずである。特に遠距離の地域に住んでいる子どもたちのことを思えば、その不自由さをスクールバスで味わせることなく、有効なタイムスケジュールを組んでほしいと思っている。

市教委

スクールバスの運行では、登校1便であるが、下校では基本的には2便で運行している。小学校は低学年が帰る時刻と、その後に高学年が帰る時刻で基本的には2便としている。中学校も基本的には2便となっている。

参加者

私の子どもはもう卒業しているが、小矢戸は京福バスを通学に利用しているが、朝夕1便しかない。2便あるのなら、早速対応してほしい。多分そうはならないと思うが、本当は最低2便、場合によっては3便を市内全域で考えてほしいと思っている。

- 市教委 私が申し上げたのは、市が所有するスクールバスの運行に関してのことである。公共交通を活用している方は、私が申し上げた2便の運行ではないケースもあると思うので、そういったことができるかも検討させていただきたいと思っている。あくまで、公共交通の部分で、今はっきりと申し上げることはできないが、それは検討させていただく。
- 参加者 今のスクールバスのことで、京福バスは市の方から話し掛けてもらって、時刻の変更など、そういうことはできるのか。
- 市教委
参加者 学校と協議をして、若干時間を変更しているケースはあると聞いている。去年、私の地区でスクールバスのことに対して、京福バスなり市のスクールバスの要請ができないかの話があった。京福バスだとほんの少しの時間で学校の始業時刻に間に合わない。それを市から言って改善してもらえるのか聞きたい。
- 私の所から下庄小学校まで片道2.5キロほどあるが、夏は結構暑いので、子どもたちを歩いて登下校させるのは忍びないと思っている。冬に雪が降ると、朝も夕方も親の送迎になって家族の負担が大きいので改善できないか聞きたい。
- 市教委 本当に2本出ていることと1本しかないことで不公平感があるのは当然だと思う。このような話し合いの場は、事業者も市も、それから学校も入った交通活性化協議会というのがある。そこで議題になって、もう少し繰り上げれば学校に間に合うので保護者も助かるのであれば、それは当然検討されるべきだと思っている。そういった声はしっかりと届けさせていただく。確認だが、始業時刻に間に合わないのか。
- 参加者 南新在家である。京福バスが5分、それぐらいの差で始業時刻が過ぎてしまう。だから使えない。昔、区長が話してくれたのは、その京福バスは高校生の始業時間に合わせているから難しいと言われたのは聞いている。朝だけでも乗りたい。
- 市教委 今言ったように協議会でしっかり話をして可能なものなのか、答えてもらえないものなのか、しっかり届ける。保護者としての気持ちはよく分かる。バスが通っているなら乗せてもらえれば安全だということもある。
- 参加者 人口減少や社会の要求、グローバル化など、日本全国、世界でも再編や調整などさまざまにあるが、このリモート学習とタブレット個人持ちは、コロナ禍でできたのか。それとも前から考えていたことなのか。リモートやタブレットの個人持ちのデメリットの部分はあると思うので、そういう点で心配事はあるのか。
- 市教委 タブレットは1人1台とし、今年にそろったが、そのような構想はあった。その構想では5年で完成させようというものであった。これがコロナ

禍で昨年度に臨時休業ということもあり、加速されたという面がある。それで1年で完成した。これはとても大きいと思っている。

それと、タブレットが全てではないので、それも光と影がある。そこはしっかりと、これからどういう場面でどういう使い方をするのが一番良いのか探していく。そういう期間が、1年、2年は必要と思っている。それを使うことが目的ではないと思っている。

④閉会のあいさつ（事務局長）